

筑波大学哲学カフェ

～市民たちの「アゴラ」の創出～

哲学カフェ 12月



いつ? 12月3日(土曜日) 14:00～17:00
どこ? つくば市民活動センター
(つくばセンター、あいあいモール1F)

あなたが考えてること、みんなで話そう!

仕事の話、勉強の話、恋の話、家族の話、命の話、健康の話、人間関係の話、教育の話、育児の話、人生の話、テーマは何でもOK、誰でも参加OKです! お茶とお菓子で待っています! 気軽に参加してください!

連絡先: tsukuba-philosophycafe@gmail.com (検索用: 五十嵐沙千子)
筑波大学人文学部哲学専攻 高橋 真由美
なお、この活動は、筑波大学・つくば教育委員会・筑波大学教職員の協力を得ています。

哲学
カフェ
1月



いつ? 1月29日(日曜日) 14:00～17:00
どこ? つくば市民活動センター
(つくばセンター、あいあいモール1F)

あなたが考えてること、みんなで話そう!

家族の話、恋の話、勉強の話、育児の話、命の話、健康の話、人間関係の話、教育の話、人生の話、テーマは何でもOK、誰でも参加OKです! お茶とお菓子で待っています! 気軽に参加してください!

連絡先: tsukuba-philosophycafe@gmail.com (検索用: 五十嵐沙千子)
筑波大学人文学部哲学専攻 高橋 真由美
なお、この活動は、筑波大学・つくば教育委員会・筑波大学教職員の協力を得ています。

具体的な成果

つくば市・東京都内で、計9回にわたって哲学カフェを開催、一般市民を含む300人以上の参加者を迎えた。参加者のほとんどが継続参加を希望、また知人や友人に紹介、あるいは県内外の高校からも「出前」カフェや「カフェ」形式での授業改善の依頼が相次ぐ、さらに他大学やサイエンス・カフェ等からも共同開催・共同研究の要請を受けるなど、驚くべき速さで「筑波大学哲学カフェ」は拡大してきた。

これまでのテーマは、「介護・看護と看取り」「教育・学校とは何か」「幸せとは何か」「脳死・安楽死」「働くということ」「家族とは何か」「イジメ」「結婚と援助交際」「環境問題と市民運動」などなど。

誰もが「自分の問題」を抱えている。毎回の議論は時間を忘れて白熱する。「答え」は出ない。それでも参加者の満足度は非常に高い。それは、ここが、「自分の問題」から出発して、「他人が抱えている問題」に共に向き合い、問題を分かち合う場所になっているからである。人びとが求めているのは、「答えを与えられること」ではない。「違う立場の人たちと語り合うこと」、「問題を自分たち自身で一緒に考え抜いていくこと」「問題を分かち合うこと」を求めているのである。

その場をわれわれは提供している。ここは市民たちの「アゴラ」＝「広場」である。異なる立場を越えて、自分の言葉で他者とつながる、開かれた市民たちの共同の議論の場＝アゴラ。あらゆる境界線を越えて「生きている他の人々と連帯する」唯一の場が、このわれわれの「筑波大学哲学カフェ」なのである。

一般市民の声をいくつか紹介する。

- 「日頃から、年齢も性別も職種も取り払って自由に議論する場が欲しいと思っておりました。充実した時間でした。感謝します。次回もぜひ参加させていただきます。」 (一般市民、男性)
- 「いつも考えたことのない段階まで、ひとつひとつ考える。これが、楽しかったです。」 (一般市民、女性)
- 「ただただ面白かったです。「哲学は人生」最近チラッと耳にし、勇気をもって参加しました。年齢や立場を超えたこのような機会は貴重です。」 (一般市民、女性)

他への波及効果、応用可能性

(1) 高大連携

茨城県内および東京都内の幾つもの高校から「筑波大学哲学カフェ」の「出前」、及び「カフェ形式での授業」の依頼、あるいは授業改善のための指導の依頼などが次々に寄せられている。

(2) 授業改善(FD)

知識伝達型授業から参加型授業へ、という言い古されたFDの標語を、実際に実現する手法を本哲学カフェは持っている。新しい授業形態への移行プログラムとしてのこの「カフェ」という「形式」は非常に有効である。授業内での教師の配置・発言のルール・設備品などのアフォーダンス等、すべてのソフト・ハードなシステムを対話型に組み替える具体的方法論をわれわれは提供できる。

(3) 学生・院生のコミュニケーション能力養成

初めて出会う相手と「わかり合える言葉」で語り、「わかり合えるまで議論を続ける」ことを目指す哲学カフェは、社会人・研究者としての生きたコミュニケーション力や対外的交渉力を身につける実践の場である。参加した学生が何回か後に達げる変貌には、主催者側も驚愕・感激している。

(4) 哲学以外のワークショップ(サイエンス・カフェなど)の手法改善、会議等の方法論改善

「ワークショップ」形式の集まりは多いが、現実には「ワークショップ」とは名ばかりで講師の講義や知の伝達に終始している場合が多い。同様に大学・会社等での「会議」も生産的議論の場になっているとは言い難い。コミュニケーション論を基盤にした本「カフェ」は、「ワークショップ」や「会議」を活性化するための空間作り・ファシリテーターの配置・タイムスケジュール作成・アイスブレイクなど、すべてにわたる改善提案をすることが可能である。

(5) 異業種交流

専門の壁を越えた場所で真剣な議論が保証される場、というのは、実は日本にはほとんど存在しない。実際に異業種の人たちが出会い、互いに開かれた言葉で対等に話をし、話を聴いて...という中から、予想もつかない新しい協働の形・新業種・インターファカルティ・あるいは新しい学問領域が生まれる可能性は非常に高い。哲学カフェをそのような新領域開拓・異業種交流のツールとして、その目的に特化して使うことも可能である。

独創性

「哲学カフェ」をはじめとするワークショップの方法論はまだ確立されていない。「どのワークショップでも結局は司会者と聞き手という固定的二項構造が持ち込まれてしまう。生産的な対話の場を作る方法論がない。これが日本のワークショップの抱える深刻な問題である。」日本で哲学カフェに早くから取り組み、これを牽引してきた本間直樹教授(大阪大学准教授、Cafe Philo代表)はこう指摘する。だが、続けて彼は言う。「それなのに筑波ではどうしてこんなに市民の対話が次から次へと生まれるのか?」

「筑波大学哲学カフェ」の独創性は、このカフェの方法論にある。

コミュニケーション論の専門家擁する本哲学カフェは、司会者⇔参加者の位置づけ・配置、対話ルールの流動化、備品・設備の解放的装置化など様々な具体的方法論によって、実に簡単に豊かな対話的空間を実現している。どんな未経験者がファシリテーターになっても双方向の対話を生み出せる具体的方法論を持つカフェは他に類を見ない。

「(司会者がいない筑波)スタイルは非常に独創的。ここには従来のファシリテーション論を越える新しいコミュニケーション空間がある。このような独創的な筑波スタイルがなぜ可能なのか、その方法論をぜひ学びたい...これは、寺田俊郎教授(上智大学教授)等から寄せられた評価である。

「哲学カフェ」それ自体は他大学でも行われている。「筑波大学哲学カフェ」の独創性はカフェの「中身」「方法論」にある。



ソクラテス＊サンバ＊カフェ

なんだ! テラダっておしゃべりなんだ!!

哲学カフェに来てみたい??
いつ? 毎月 24日(日曜日) 14:00-17:00
どこ? つくば市民活動センター(つくばセンター、あいあいモール1F)
参加費? 無料
申し込み? 無料
申し込み先? tsukuba-philosophycafe@gmail.com (検索用: 五十嵐沙千子)
主催 筑波大学人文学部哲学専攻 高橋 真由美
共催 筑波大学・つくば教育委員会・つくば市民活動センター (つくばセンター、あいあいモール1F)

お問い合わせ先: tsukuba-philosophycafe@gmail.com (検索用: 五十嵐沙千子)
主催 筑波大学人文学部哲学専攻 高橋 真由美
共催 筑波大学・つくば教育委員会・つくば市民活動センター (つくばセンター、あいあいモール1F)

筑波大学哲学カフェ

ソクラテス＊サンバ＊カフェ

なんだ! テラダっておしゃべりなんだ!!

予約も参加費もありません★

フラッと気軽に遊びにきてねー★



連絡先: tsukuba-philosophycafe@gmail.com (検索用: 五十嵐沙千子)

いつ? 毎月 24日(日曜日) 14:00-17:00

どこ? つくば市民活動センター(つくばセンター、あいあいモール1F)

お問い合わせ先: tsukuba-philosophycafe@gmail.com (検索用: 五十嵐沙千子)

主催 筑波大学人文学部哲学専攻 高橋 真由美
共催 筑波大学・つくば教育委員会・つくば市民活動センター (つくばセンター、あいあいモール1F)

学内外との連携状況

(1) 行政との連携・・・本活動は、茨城県教育委員会ならびにつくば市教育委員会から高く評価され、後援名義を受けている。カフェ拡大のためには行政との連携は有効である。

(2) 他大学との連携・・・上智大学と合同で哲学カフェを実施したが、早くから哲学カフェを行ってきた大阪大学の研究者ともすでに連携している。今後は他大学と合同での哲学カフェを、都内および東日本大震災被災地等で実施する。また、カフェ方法論の確立についての共同研究を進める予定である。

(3) 高等学校との連携・・・今年度は、県内および都内のいくつかの高等学校と連携し、学校でのカフェ開催、ならびにカフェ形式による授業研究を進めることになっている。(茨城県立水戸第一高等学校、東京学芸大学附属高校(世田谷)、茗溪学園高校他)

(4) 複数の異業種との連携・・・今年度は、サイエンス・カフェとの連携、介護・看護士を対象とした対話カフェ、医師と患者の対話カフェ、学校の教職員と保護者との対話カフェ、教師と生徒(学生)との対話カフェなどを計画している。



ソクラテス＊サンバ＊カフェ

なんだ! テラダっておしゃべりなんだ!!



お問い合わせ先: tsukuba-philosophycafe@gmail.com (検索用: 五十嵐沙千子)

いつ? 毎月 24日(日曜日) 14:00-17:00

どこ? つくば市民活動センター(つくばセンター、あいあいモール1F)

お問い合わせ先: tsukuba-philosophycafe@gmail.com (検索用: 五十嵐沙千子)
主催 筑波大学人文学部哲学専攻 高橋 真由美
共催 筑波大学・つくば教育委員会・つくば市民活動センター (つくばセンター、あいあいモール1F)